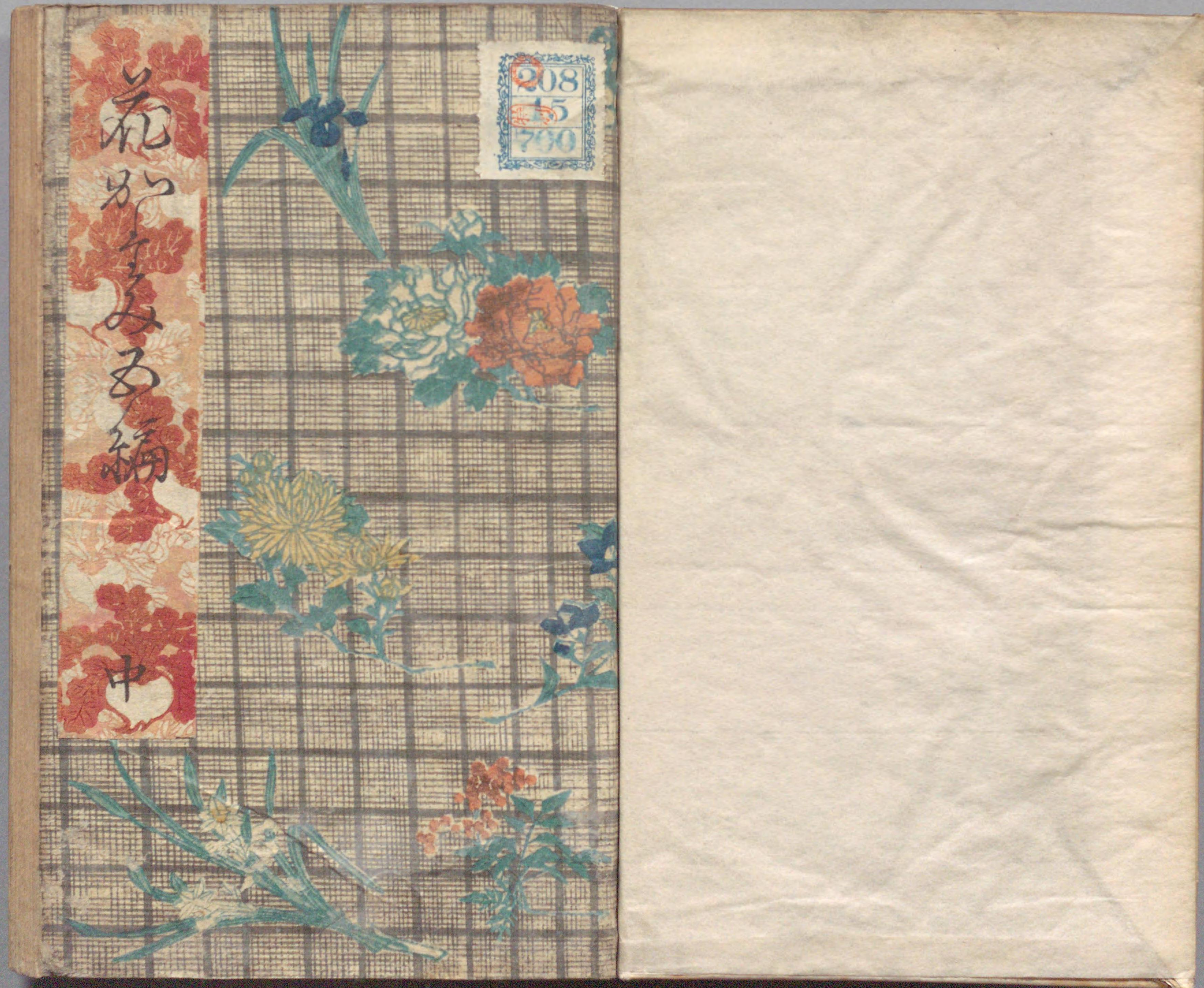
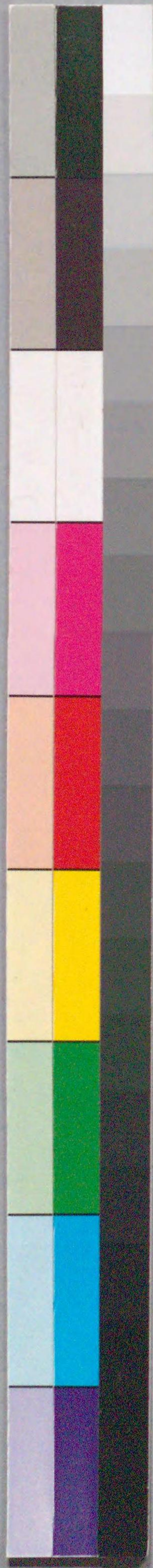




国立国会図書館 花筐 5編 208-700



ガラス使用



国立国会図書館 花籠 5編 208-700

ガラス使用

遊観 花筐第五編卷之下

東都

松亭金水編次

第九回 今を知らぬ處女の赤心

物うらふ君がひびらん鶴のきれと優美人が知らり
しも今さきさき出づ候。八雲の鶴も何れくふ鳥は
娘と仰らふ。東よむけの横をよ。ちや白くと明日
さる。金瓶山の六ツの滝ボシと雲く草まき。旅の
心地のせきま。松花存の眼成さす。松亭金水編次



小瀬に小瀬も深し〜
昔作して先も角も送金〜
姑の相相多〜
と十分でござります〜
まずせ五振サモシ〜
来ても〜
ト動〜
強出に小瀬〜

最たる。伍八〜
もの多〜
此処〜
一向〜
尋ね〜
審〜
あり〜
さん代〜





母の妙なるも。兄の病氣の足跡がくく。お六がゆもりの小
るじり。安ま然くく来り。隔てのあふぬ同胞のずい病
写るうち通まき。長き糸の這く遠巡て。今もあふぬ野ら。
縁のたはれ具は演ま。妙なるうち。秋ひみ。五根う。とま六
大き小宜う。若侘も何根る。と死と薬トらま。え。
態とかく。あこのサ此方もお納ぐ来。泣く時むく。多
可也。さう。あ。ア。お納。と。の。嬢。の。年。の。性。あ。い。ま。ご。ど。
あ。く。何。根。七。お。め。の。あ。の。ご。今。ま。を。教。回。は。来。で。七。も。
万々下八

唯一通りあて居さう。委しいもの。知るるんが。今う。取の
あ。の。り。く。く。自。己。れ。月。の。う。へ。ま。小。就。ち。や。ア。母。さ。ん。の。お。お。
拵。が。て。中。さ。る。る。る。自。己。の。何。根。る。ら。う。と。お。り。も。お。お。
あ。の。存。り。ま。せ。ん。と。種。々。義。心。の。活。説。の。述。先。納。や。う。く。宜
分。解。く。ど。う。く。ん。く。十。七。や。十。八。の。若。れ。り。写。り。や。る。の。波。の。サ
何。卒。志。ん。お。あ。れ。何。小。く。老。を。な。く。め。つ。こ。勿。論。り。と。家
隸。の。を。抄。の。何。の。中。う。の。の。ご。か。女。の。性。素。性。を。標。致。す。り。
ん。ご。ん。が。肝。心。で。む。り。の。何。の。の。王。さ。な。も。桑。を。採。り。る

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12

実務。さきもぬき居の外へ申付た実へ今日、且、
さぬ。わくしんお枝ようござりませう。是の愈さぬ宜てト
妙心母子小挨拶すまじ。妙心の玄統して。妙サテ何様も
困つこののど。若くともあるの。実子ど。兔角果
敢て考くあるやう。まよ。純くも何うも何まをよ
心付て疑うう。私どの。俱々安んとのう。今も小侍と
ますト。實に実務。頭成さげ。実不ヤモウ。若い。若と遠
ひましく。物覚えの。悪くある。根も。落く。なり。ます。と。居

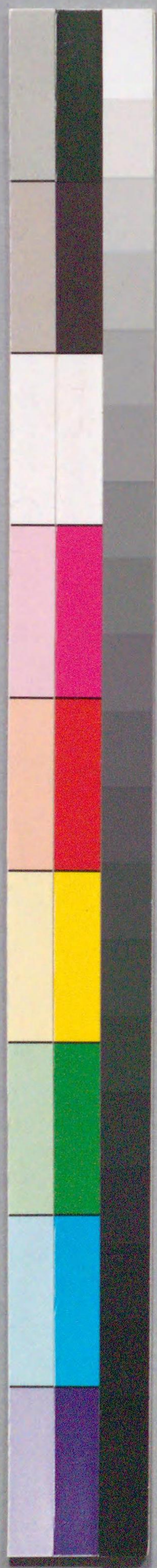
万巻を五下

あひの。さ。り。よ。ご。ご。り。ま。ん。 誂。コ。実。務。を。方。の。の。何。乃
用。ど。此。方。小。も。チ。リ。ガ。た。る。が。実。へ。不。私。の。中。に。す。ま。ん。と。若
且。乃。さ。ぬ。の。り。ん。ご。ご。り。ま。ん。先。日。長。を。仰。さ。ぬ。ま。り。 誂。と
の。任。に。さ。ぬ。也。兼。知。た。ら。う。と。強。て。兼。り。る。早。速。を。あ。は。し。せ
え。ど。お。も。て。 荏。去。表。の。万。有。方。中。を。り。は。し。と。か。を。返。辞。う。唯。今。と。誂
は。し。と。若。且。乃。さ。ぬ。の。り。ん。ご。ご。り。ま。ん。早。速。お。暇。を。持。た。ぬ
す。と。の。り。ん。ご。ご。り。ま。ん。 荏。去。表。の。万。有。方。中。を。り。は。し。と。か。を。返。辞。う。唯。今。と。誂
ませう。と。存。が。ます。 荏。去。表。の。万。有。方。中。を。り。は。し。と。か。を。返。辞。う。唯。今。と。誂



ますし。早くそのと夜中上やうと存出して。妙やた振入。更
志やアモウ。志子。解る子。実へい。何まはしても。たぐをう。うりま
う。大。小。種。お。せ。作。ご。ろ。何。も。願。ま。う。ま。は。く。の。り。好。目。と
志。よ。か。う。ご。ら。う。の。き。必。で。く。実。亮。ど。ん。宿。倫。ど。も。が。都。々。来。こ
の。代。の。り。も。振。か。た。の。一。件。サ。き。さ。ぬ。も。担。か。つ。の。あり
彼。も。若。振。入。の。と。い。ひ。ろ。の。ご。ろ。の。初。ま。て。女。の。子。ま。よ。来。来
叙。え。ん。の。お。侍。小。居。で。振。振。も。よ。く。知。つ。じ。と。の。長。心。病。意。よ
振。入。も。代。の。者。が。お。世。作。で。する。よ。う。ア。大。き。小。宜。と。の。り。の。早。免

松さんと粒麿の。と。何。の。か。此。の。お。世。入。も。なる。け。ま。と。今。小
宅。へ。入。る。さ。る。中。う。小。成。て。見。て。又。ア。其。の。す。し。と。思。て。今。ま。た。の
通。を。盡。て。さ。る。方。が。の。を。お。病。と。と。さ。う。さ。る。の。の。ま。小。あ。の
自。己。う。く。れ。が。解。ん。流。梅。す。る。と。の。り。ご。う。う。モ。其。う。人。の。遠
も。なる。め。へ。し。亦。あ。さ。う。あ。さ。う。の。り。の。振。入。も。なる。ら。今。は
當。つ。て。叔。さん。の。い。き。病。も。ア。誰。が。は。て。わ。げ。て。も。彼。小。紙。の
の。の。の。の。め。へ。と。名。か。う。う。叙。さん。の。且。お。侍。之。の。所。も。定。め。て
漸。と。清。心。の。あ。る。中。う。小。い。と。そ。と。あ。の。ま。う。の。振。入。あり。一。應





6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8

小舟へ備切えんぎも幸えんぎ痛えんぎはるけり。凡たく六日あふも及ありし程あ程
大きな使とらうへ。食事あきども進むすふえ。由よもな。名な是これも
氣きをいあじと。奉たう人ひともな。あうち。飲あぶ。と。示し終しまへ。松次まつじ舟ふねの
し。ま。この地ちへ。あ。ま。う。種たね。今いま。西にし人ひと。湯ゆ。も。ゆ。う。程ほど。ま。う
一い通と。中ちゆう。吹ふ。碇いかり。が。う。種たね。今いま。種たね。今いま。ち。出い。て。長なが。や。布ふ。せ。坊ぼく。ひ
け。る。小こ。水みづ。ひ。ん。り。莊しやう。小こ。と。雲う。々々。名な。城じやう。へ。城じやう。き。る。地ぢ。の。種たね。を
述の。る。に。種たね。へ。酒さけ。考かう。も。と。餐い。食じ。も。人ひと。相あ。今いま。り。名な。も。あ。る。ま。う。
生せい。殺ころ。も。あ。る。と。種たね。侍しやく。の。跡あと。あ。る。と。示し。種たね。の。物もの。あ。り。

是こゝ。以も。殺ころ。小こ。モウう。ッつ。と。い。ひ。あ。う。う。と。納な。戸ど。れ。方かた。の。隔へ。紙し。さ。う
ま。と。扱あ。り。あ。け。と。う。あ。と。舟ふね。ひ。て。ま。出い。る。お。寅とら。推お。見み。と。人ひと。抱か。き
う。ま。へ。松次まつじ。舟ふね。の。あ。ひ。の。う。う。と。花はな。果はな。も。と。と。も。も。は。實じゆ。入い。
長なが。の。舟ふね。へ。小こ。福ふく。を。ん。始はじ。め。地ぢ。の。う。と。を。活い。説せ。し。且かつ。その。頃とき
國くに。ら。ば。も。お。折お。り。と。お。折お。小こ。今いま。う。り。ま。ま。の。い。ち。う。活い。ま。し。松次まつじ。舟ふね。の。
着き。小こ。着き。も。う。と。地ぢ。の。う。と。推お。見み。の。奥おく。さ。う。服ふく。も。面めん。目め。も。い。や。う
痛いた。し。の。や。ら。主ぬし。の。情なさけ。お。寅とら。が。赤あか。心こゝろ。の。一ひと。席せき。を。妻つま。く。い。た。と。書か。き
官くわん。の。倦あ。れ。と。書か。き。の。う。う。種たね。運うん。べ。代だい。且かつ。く。種たね。も。あ。り。

6 7 8 9 110 1 2 3 4 5 6 7 8 9 120 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

松平清宗は実母を以て、昔く銀けをきつて見せしむ
りんと長太郎に懐く。頼てその目いなりけるが、是より自
を處せんと。知方知已てせよとも人の名り入て博を。お方
が方へいりまひ性ばん、松平清宗は、そふおの長太郎が
遠方の恩て方ある。せめて儘の積んと種を、松平清宗は。
おの付するおの付して、松平清宗は、おの付して、松平清宗は。
おの付して、松平清宗は、おの付して、松平清宗は。
おの付して、松平清宗は、おの付して、松平清宗は。
おの付して、松平清宗は、おの付して、松平清宗は。

松平清宗は、病の罹りて、未だ、細くあり、おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。
おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。おの付する。



甲子の年 實為若助小委 福のちや 准伯成老がへん。
 頃ハその年 卯月二日 首尾よく 婚姻せ給へけま。お終ふ
 心ひよありふ。心ひ協つて 松次布が 澤家と 呼ぶは
 ざ。 喻ふに 物もな。 且 男 跡 存 承へ へす け あり とい 珠の
 親も。 倍々 大切 あり けま。 松次 布も 其の 情ま ひとま。 へ
 文 輝の中も 睡ま しく 千代小八 代子 玉 撮め たり 終 承 承
 候なるべ

作者 田の 草紙 元 教 多の 處 揚げ 出て。 其の

解ん といふ。 其の 腹 行の いと 長う まで。 水 濟 物 社の
 傳 傳 さら。 終 里の 始 免の 執 向よ なる こと。 況て 吾と け
 べき 拙 きれも。 長く あり ねど 林と 薄く 出て。 折角
 ヤシヤと 名 振の 心 意 小 懐ひ。 其の 果 小 果 撮ま とも
 異 あり のと。 版 元 書 体 が 氣 せ 付る も。 無 理 あり あり け
 と 自 づ 懐 里。 まが 能 加 減 小 承 瓜 割 き 是を 大 尾
 の 中 小 懸 こと。 かの 美 老 夫 の 丸 奉 と 遠 け 人 物



208
15
700

花筐第五編卷之下終

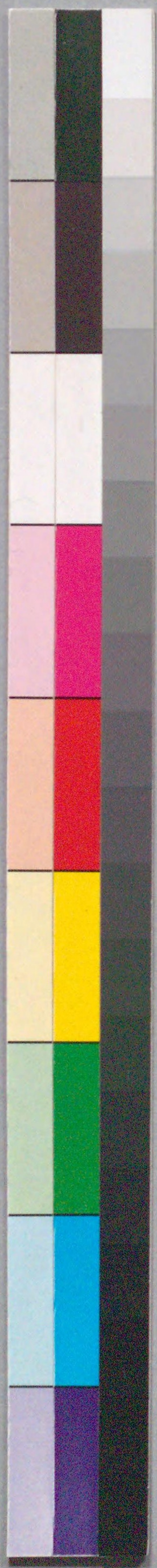
のころ消^きの魚油^{ぎょあぶら}と香^かしく堀^ほふ新^{あたら}故^{ふる}の跡^{あと}半^{はん}人の傳^{でん}
記^きの拾^{しゅう}遺^いと号^{ごう}く泥^{どろ}の^の收^あり成^なるまじりく。
さてたの^{たの}し^しろ^ろに^に新^{あたら}教^{きょう}向^{むか}ふ^まち^ちや稿^{こう}ありて出^い板^{ばん}の。
福^{ふく}も近^{ちか}きよ^よは^は尚^{なほ}お^おら^らる^るま^まは^は具^ぐ有^{ゆう}の^の比^ひ評^{ひょう}判^{はん}で
お^おひ^ひを^をて^て内^{うち}侍^{しやく}新^{しん}

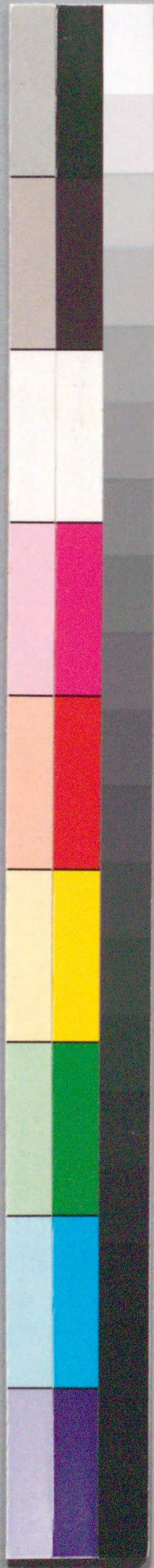
金水再瀝

208
15
700

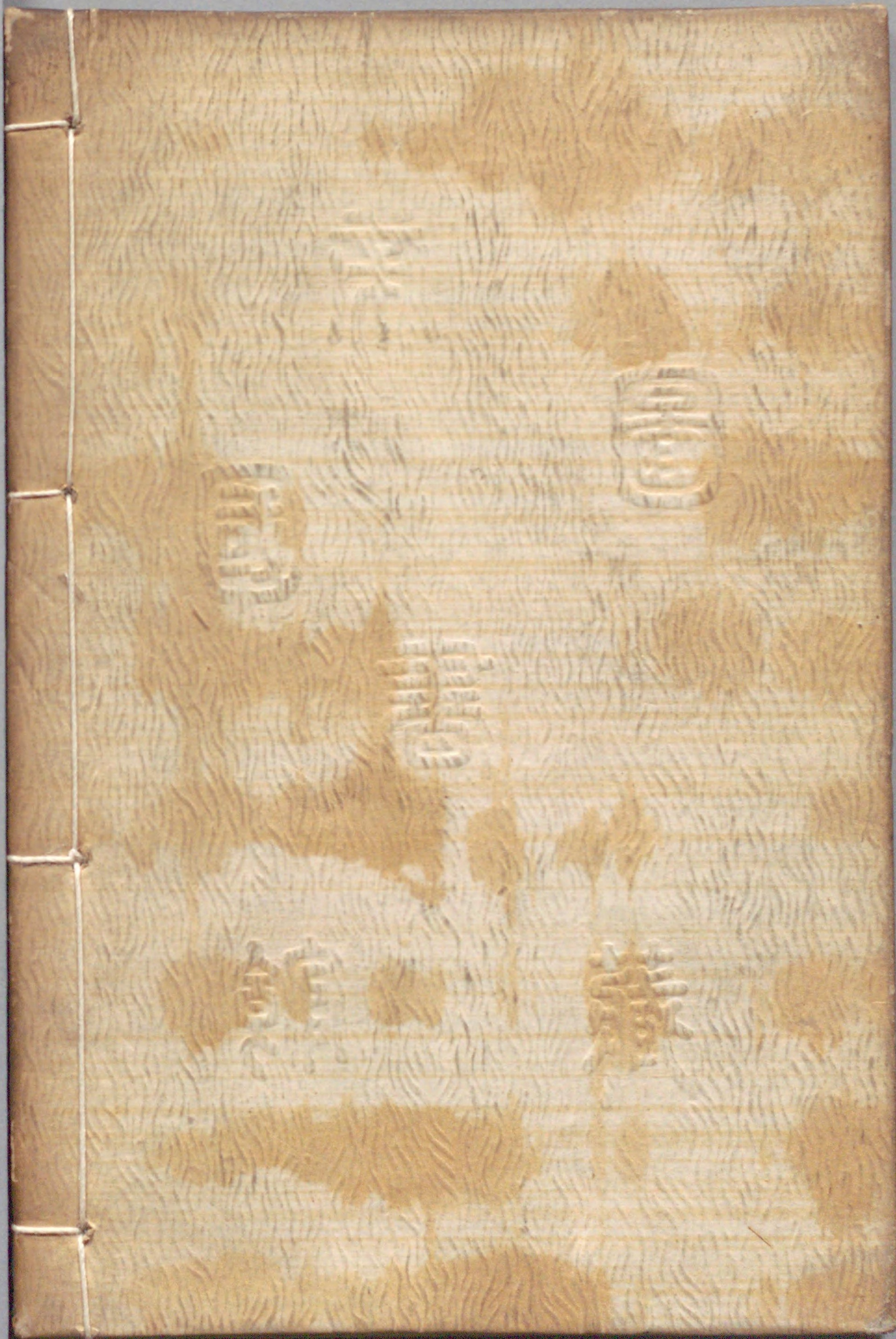
国立国会図書館 花筐 5編 208-700

ガラス使用





国立国会図書館 花筐 5編 208-700



ガラス使用

